



北海道医療大学保健管理センター年報 第4号(2011年)

Annual Report of Health Counseling and Assessment Center

Vol.4 (2011)



北海道医療大学
Health Sciences University of Hokkaido

保健管理センター年報第4号発行にあたって

北海道医療大学 学長 新川 詔夫*

平成23年度「保健管理センター年報第4号」が刊行されました。これは過去5年間のセンター業務実績とともに問題点や今後の課題などをまとめたもので、家子正裕所長や飯塚健治副所長をはじめ、長谷川純子保健師さん、黒田なをみ看護師さん、学生相談室カウンセラーの森近三智恵臨床心理士さん、根本大輔臨床心理士さんたちの日頃のご尽力の賜物です。

ご存知のように、北海道医療大学保健管理センターは本学の学生および教職員の健康管理や健康相談などの重要な業務を担っています。近年は学生の健康診断受診率は低下傾向にある一方で、センター自体の利用者は増加しております。また、幼少時のワクチン未接種のためか数年前頃からムンプスや麻疹などの感染症が発生したという問題や、また学生の心と身体的な悩みやストレスなどの相談などの増加もみられます。これらは全国的な問題ですが、本学の保健管理センターではスタッフの献身的な支援によって、日々解決に向かっております。課題の一つはあいの里キャンパスの学生・教職員に対する保健管理サービスをいかに行うかだと思います。

学生中心の教育と患者中心の医療の推進が本学の行動指針であります。本学学生と教職員が健康でかつ安心して大学生活を送ることができるように、今後もセンターのスタッフ共々皆さんの一層の協力をお願いしてご挨拶いたします。

北海道医療大学保健管理センター年報

第4号年報発行にあたって ----- 学長 新川詔夫

I	保健管理センター利用状況の推移（平成18年度～22年度）	
	1. 年度別利用状況 -----	1
	2. 月別利用状況 -----	2
II	平成22年度保健管理センター利用状況	
	1. 学部・月別等利用状況 -----	3
	2. 学年・内容別等利用状況 -----	4
III	保健管理センターに関する所感	
	保健師・看護師 -----	5
	学生相談室：学生相談員 -----	6
IV	保健管理センター運営委員会より	
	運営委員として再認識する「保健管理センター」の重要性 -----	10
	心理科学部における感染症管理 -----	12
V	「北海道医療大学における今年度入学生の麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎ウイルス抗体」—過去2年間との比較による第4期MR7ワクチン予防接種の効果について—	14
	(平成21年8月 第47回全国大学保健管理協会北海道地方部会研修集会報告書より)	
VI	学生健康診断受診状況推移（平成18年度～22年度）	
	1. 年度別受診率 -----	18
	2. 学部別・検診別受診状況 -----	19
VII	平成22年度学生健康診断受診状況	
	1. 学部別受診状況 -----	22
	2. 学年・検診別受診状況 -----	23
	3. 有所見者状況 -----	26
	4. 血液検査有所見者状況 -----	27
	5. 血液・感染症検査状況 -----	28
	6. 健康診断等の実施対象 -----	29
VIII	平成23年度保健管理センター概況	30
IX	保健管理センター構成員	31
X	保健管理センター関連規程集	32
XI	保健管理センター長から	36
XII	保健管理センター業務案内	38

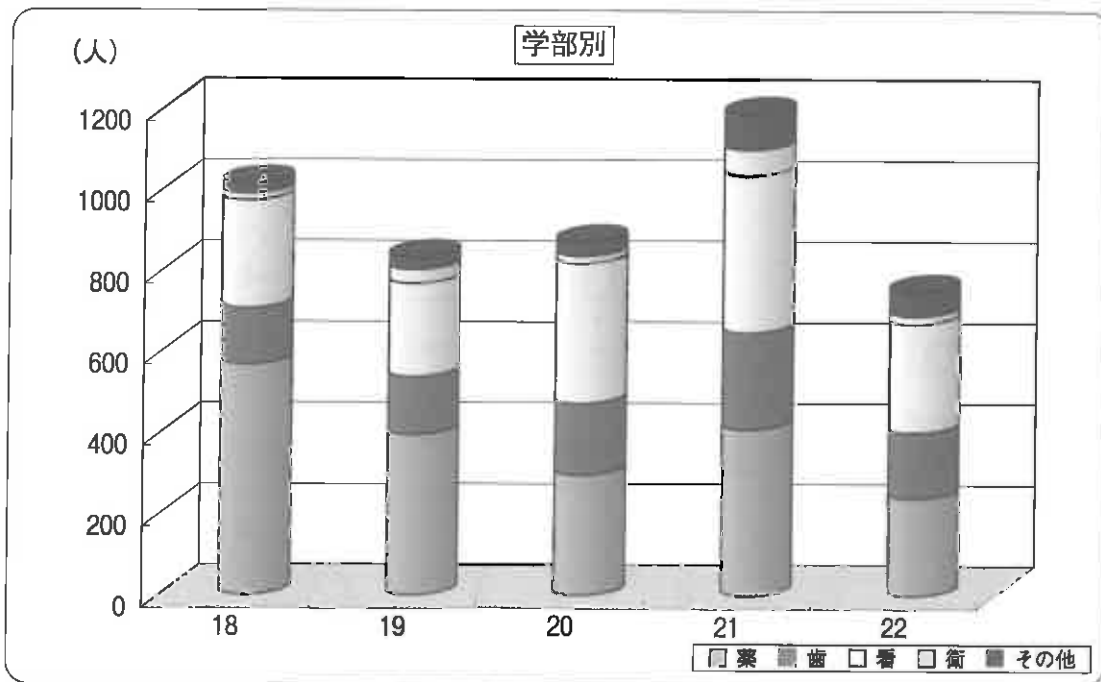
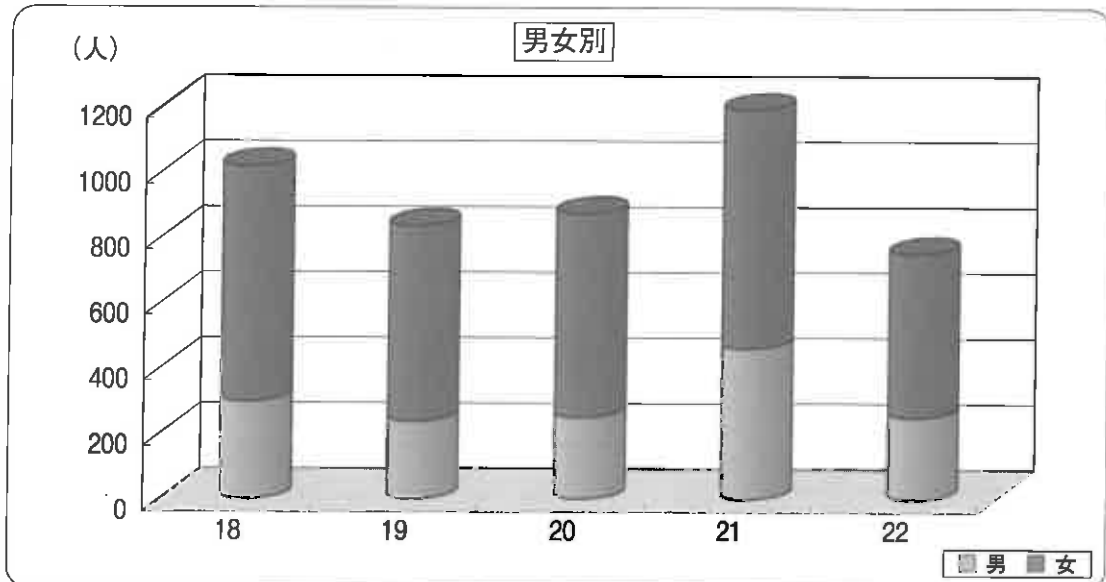
○保健管理センター利用状況の推移 (平成18年度～22年度)

1. 年度別利用状況

(人)

年度	男女別			学部別						開所 日数	1日 平均	1月 平均	備考
	男	女	計	薬	歯	看	衛	その他	計				
18	296	719	1015	568	139	266	16	26	1015	182	5.6	92.3	
19	236	597	833	395	143	230	34	31	833	184	4.5	75.7	
20	248	623	871	296	177	346	17	35	871	190	4.6	79.2	
21	459	729	1188	409	239	388	63	89	1188	181	6.6	99.0	(再) 317
22	249	501	750	240	162	269	18	61	750	184	4.1	68.2	

(再) は電話対応の再掲

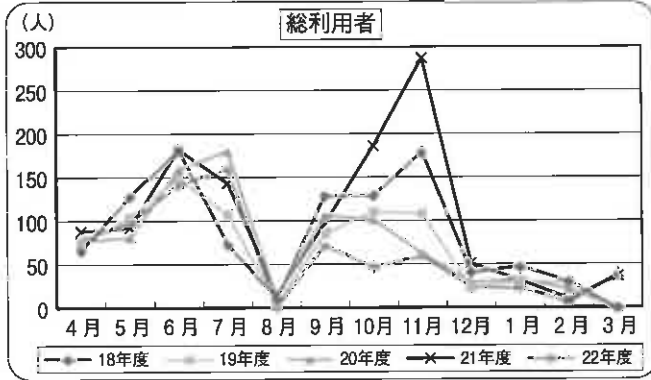


薬＝薬学部
 歯＝歯学部
 看＝看護福祉学部
 衛＝歯学部附属歯科衛生士専門学校

2. 月別利用状況

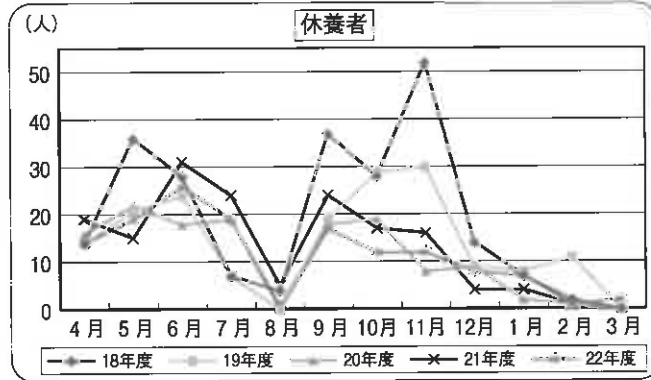
(1) 総利用者 (人)

月	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
4月	66	74	78	88	78
5月	128	105	82	92	99
6月	182	150	160	182	142
7月	73	108	181	143	160
8月	11	6	13	16	1
9月	129	86	107	97	72
10月	129	111	102	186	47
11月	179	109	63	287	60
12月	41	24	30	51	24
1月	47	31	33	31	23
2月	30	29	22	10	6
3月	0	0	0	36	38
計	1015	833	871	1219	750



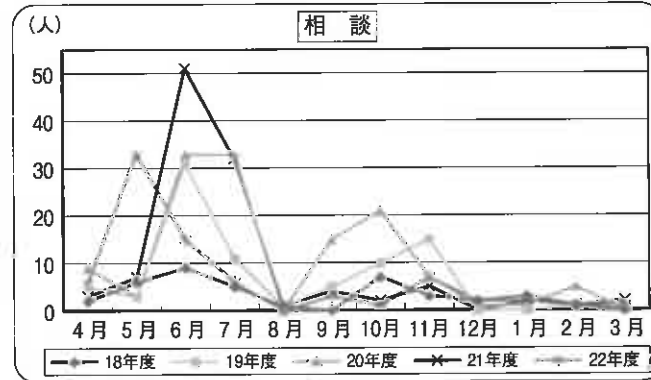
(2) 休養者 (人)

月	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
4月	14	14	16	19	14
5月	36	21	22	15	19
6月	28	24	18	31	26
7月	7	7	19	24	19
8月	4	0	1	5	0
9月	37	19	18	24	17
10月	28	29	19	17	12
11月	52	30	8	16	12
12月	14	9	9	4	8
1月	7	8	2	4	7
2月	2	11	1	1	1
3月	0	0	0	0	2
計	229	172	133	160	137



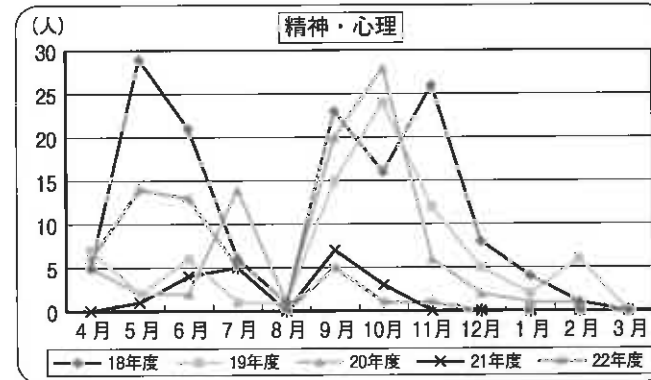
(3) 相談 (人)

月	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
4月	2	5	9	3	6
5月	6	3	3	7	33
6月	9	31	33	51	15
7月	5	11	33	32	6
8月	1	1	0	1	0
9月	0	5	15	4	3
10月	7	10	21	2	1
11月	3	15	7	5	7
12月	2	0	1	0	2
1月	3	0	1	2	2
2月	1	1	5	1	1
3月	0	0	0	2	1
計	39	82	128	110	77



(4) 精神・心理

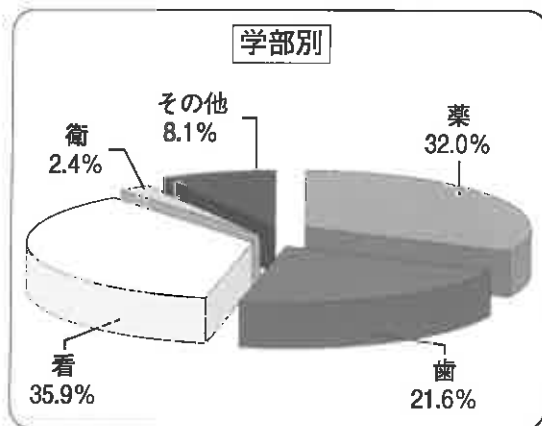
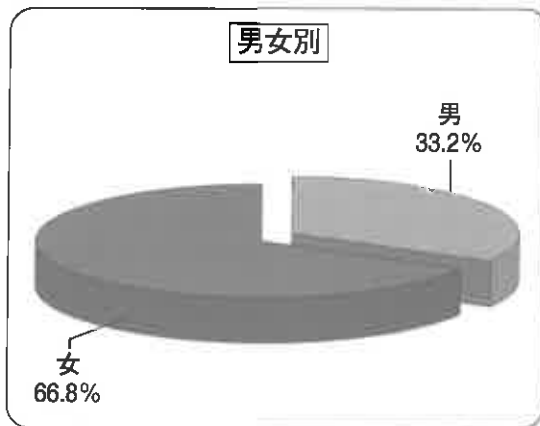
月	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
4月	5	7	5	0	6
5月	29	2	2	1	14
6月	21	6	2	4	13
7月	6	1	14	5	5
8月	1	1	1	0	0
9月	23	15	20	7	5
10月	16	24	28	3	1
11月	26	12	6	0	1
12月	8	5	2	0	0
1月	4	2	1	0	0
2月	1	6	1	0	0
3月	0	0	0	0	0
計	140	81	82	20	45



○平成22年度保健管理センター利用状況

1. 学部・月別等利用状況

月	男女別			学部別						開所日数	1日平均
	男	女	計	薬	歯	看	衛	その他	計		
4月	21	57	78	39	3	30	1	5	78	21	3.7
5月	35	64	99	45	22	26	1	5	99	18	5.5
6月	40	102	142	32	33	71	4	2	142	21	6.8
7月	55	105	160	34	39	75	5	7	160	21	7.6
8月	1	0	1	1	0	0	0	0	1	2	0.5
9月	21	51	72	31	16	22	1	2	72	20	3.6
10月	12	35	47	10	20	11	4	2	47	19	2.5
11月	24	36	60	26	12	18	2	2	60	20	3.0
12月	11	13	24	12	2	9	0	1	24	8	3.0
1月	9	14	23	4	11	5	0	3	23	15	1.5
2月	2	4	6	3	1	1	0	1	6	8	0.8
3月	18	20	38	3	3	1	0	31	38	11	3.5
計	249	501	750	240	162	269	18	61	750	184	4.1



薬＝薬学部
 歯＝歯学部
 看＝看護福祉学部
 衛＝歯学部附属歯科衛生士専門学校

2. 学年・内容別等利用状況

(人/延数)

	1		2		3		4		5		6		大学院		他		小計		計	学部別					
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		薬	歯	看	衛	他	
内科系	風邪症状	5	24	2	4	15	5	9	13	9	3			2		1	42	50	92	38	28	23	1	2	
	消化器系	4	9	1	12	5	6	5	5		1					3	15	36	51	18	11	18	1	3	
	循環器系															1		1						1	
	頭痛		3	1	7		6	5	6									6	22	28	16	8	3	1	
	その他	4	9	1	10	2	12	1	1	1	1			3		8	1	20	34	54	19	11	14		10
外科系	切傷他	4	9	1		4	7	1	5			2				1	12	22	34	17	10	6		1	
	打撲他	5	11		10		2	1	5	3	1							9	29	39	18	10	9	2	
	筋肉痛他		5			2	1											2	6	8	2		6		
	皮膚科系	1	12	2	6	4	10	1		1			1			3	10	31	40	15	7	15		3	
	その他	1	3		1	1	5	1	2									3	11	14	6	2	6		
精神・心理相談		29		4	3	8	1										4	41	45	10		35			
その他	生理痛		15		5		8		5		2							35	35	11	10	13	1		
	歯痛						1											1	1	1					
	検査結果	21	34	7	15	14	29	20	17	1	1	3			1		67	96	163	34	39	75	9	6	
	身体検査票	3			2	2			1	4	1		5					9	9	18	5	6	7		
	その他	11	32	9	14	7	2	3	11	3	1		1	1	15	17	49	78	127	30	20	39	3	35	
小計	59	195	24	90	59	102	48	71	22	11	5	6	7	25	26	249	501	750	240	162	269	18	61		
処遇	ベット休養	5	42	1	24	10	21	1	14	4	3		4		7	1	32	105	137	40	25	59	4	9	
	与薬	4	31	3	18	7	19	18	10	7	4					3	39	85	124	52	32	36	1	3	
	処置	17	58	1	21	19	22	6	19	8	4			5	3	3	59	127	186	76	41	59	3	7	
	他機関受診	1	4		5		1						1					2	10	12	5		6	1	
	他機関受診勧奨	10	15	8	15	5	8	3	9	2	1	1	1				30	48	78	25	11	37	4	1	
	相談	12	20		4	8	14	6	6	1	2			1	3		31	46	77	31	8	33		5	
	学生相談		4		1	1	1	1										2	6	8	3		5		
	その他	15	74	8	19	12	47	22	23	4	3	3	1	1	4	66	170	236	65	57	102	5	7		
電話対応	5	10	5	8	1	1	3	7			1			14	16	29	42	71	10	4	18	2	37		

薬＝薬学部

歯＝歯学部

看＝看護福祉学部

衛＝歯学部附属歯科衛生士専門学校

保健管理センターに関する所感

長谷川純子¹ 黒田なをみ²

¹北海道医療大学 保健管理センター 保健師

²北海道医療大学 保健管理センター 看護師

保健管理センター年報第3号発行以降の大きな変化は、平成18年4月の学生相談室の開設および平成19年9月の保健管理センターの移転があります。

新保健管理センターでは、部屋数、ベッド数も増え、休養や相談希望の学生も以前より他の利用者を気にせず来室できるようになったのでは、と思われます。

学生相談室も新相談室に移転後は、学生の紹介や、情報交換がスムーズになりました。多様化している学生への対応に少し前進したと思われます。

また、ここ数年の大学保健管理に関しては、平成19年の麻疹の流行、平成21年の新型インフルエンザの流行など、新たに感染症対策が必要になりました。

本学でも、平成20年に全学生の小児感染症血液抗体検査を実施、平成21年度からは新入学生の小児感染症血液抗体検査が実施されました。

保健管理センターの業務として、結果の説明やワクチン接種に関わる業務も増えてきている現状です。

このように、以前より多くの学生に接することが増え、感じるがあります。結果の説明など、集団の場での話は、伝わりにくい印象です。印刷物等を用意しながら説明の工夫もしていますが、自分自身の事として捉えられていない人も多いように思われます。

また、健康診断時使用の身体検査票を戻さない、検査結果を取りに来ない、検査結果を無くすなどの学生が増えてきています。それらに対して何度も呼び出しの掲示をしたり、紛失の多い学部には検査結果を入れた封筒に注意を促すシールを張ったりと二重、三重のフォローをせざるを得ない状況です。

これらは保健管理センターの今後の課題でもありますが、学生本人も、将来医療に携わる者としての自覚や、自分の健康に対する意識にも注意を向ける事を希望します。

¹E-mail : j-hase@hoku-iryo-u.ac.jp

²E-mail : evian@hoku-iryo-u.ac.jp

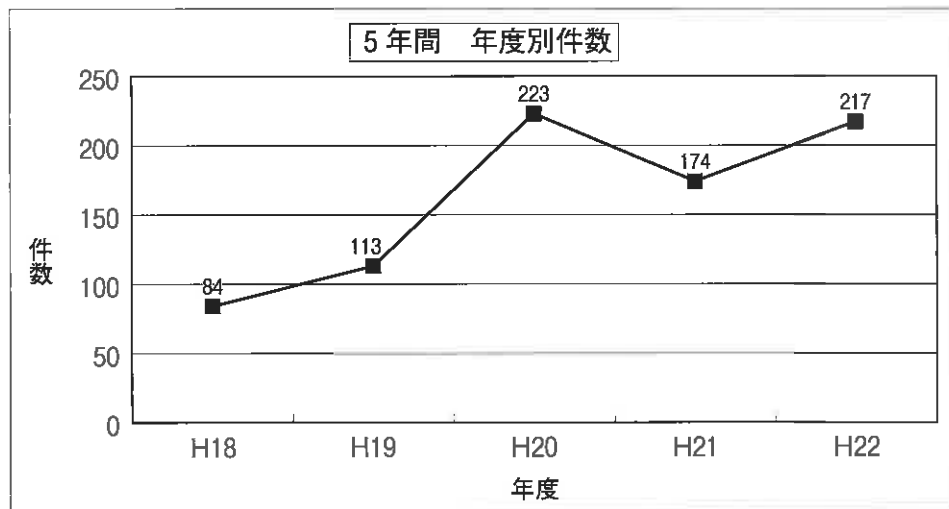
学生相談室 5年間の経緯

森近三智恵*

北海道医療大学 保健管理センター 学生相談室 学生相談員/
臨床心理士

北海道医療大学保健管理センター・学生相談室は、平成18年度（2006年）4月から「あいの里キャンパス」、同年8月から「当別キャンパス」にそれぞれ配置された。当初各キャンパスで1週間に1日（7時間）の相談時間だったが、平成22年度（2010年）からは各キャンパスで1週間に2日間ずつ（14時間）開室する体制をとっている。またそれぞれ男性1人、女性1人の相談員が各キャンパスに1日ずつ交代で担当しており、相談内容によって相談しやすい性別を選択できるようにしている。

◎相談件数

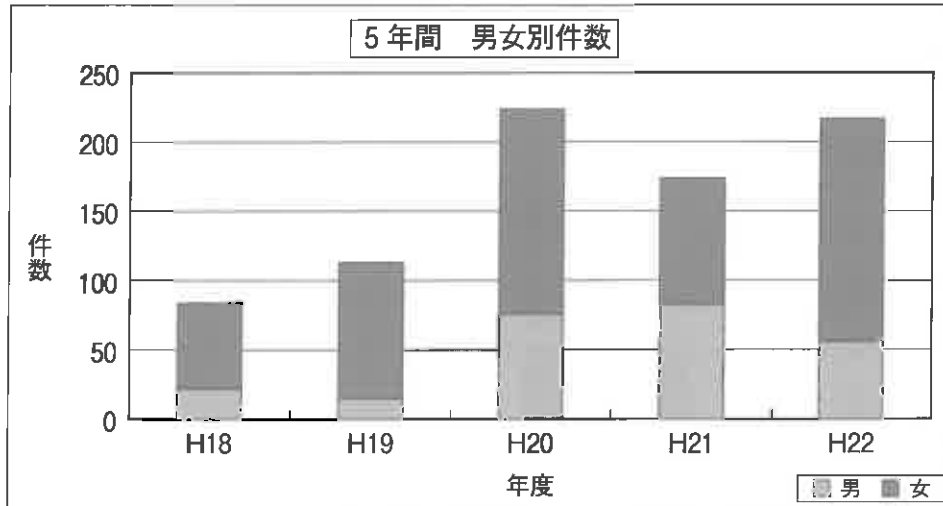


<参考> 実人数

実人数	あいの里	当別	合計
H18	22名	4名	26名
H19	9名	10名	19名
H20	16名	10名	26名
H21	11名	8名	19名
H22	29名	23名	52名
合計	88名(男25/女63)	54名(男18名/女36名)	142名(男43名/女99名)

*E-mail : mmichie@hoku-iryu-u.ac.jp

◎男女差



*男女差比に教職員のコンサルテーションは含まれていない。

◎相談内容

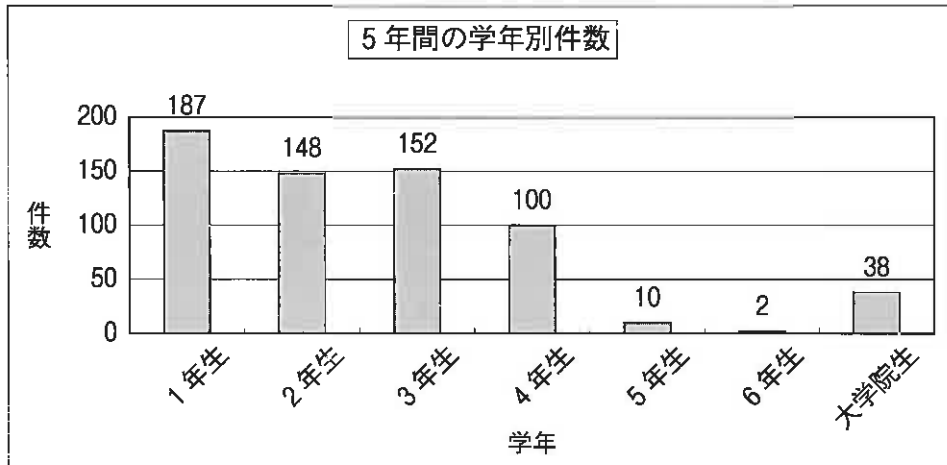
	H18	H19	H20	H21	H22	総数
友人関係	25	20	59	25	26	155
家族関係	7	6	8	13	15	49
異性関係	4	4	8	2	5	23
ハラスメント	1	0	0	0	0	1
学習・進路	11	11	22	21	25	90
精神・神経疾患(疑)	20	59	88	57	79	303
発達障がい				0	15	15
日常生活	9	2	3	5	8	27
その他	7	11	35	51	55	159

*「その他」は、休憩、雑談などが含まれる。

精神疾患や神経症（H18～H20は発達障がいも含む）が極端に多い。継続的な支援が必要なため頻回に来室していることが件数に影響している。次いで「その他」が多いのは、「休憩をする」ケースである。学校生活の中で一時的にでも気持ちを安定させる場所、気持ちを切り替える場所として活用しているようだ。次に「友人関係」についての相談も多い。これは年齢的な発達段階における内容、精神疾患、発達障がいにより対人関係を苦手とする内容のものも含まれている。「学習・進路」については、環境の変化に

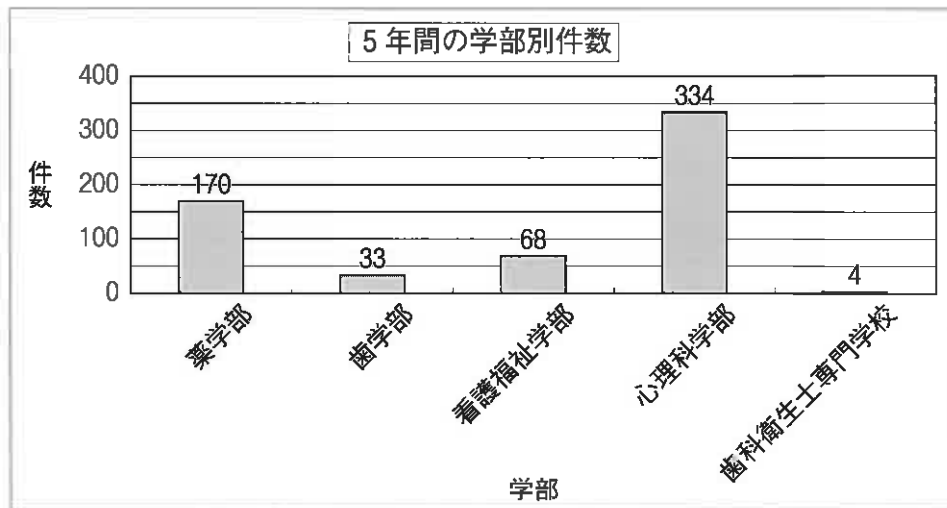
適応しきれないケースや、不本意入学のための意欲低下、学習以外への興味の増加、が多い傾向にあると思われる。

◎学年別 利用者数



環境の変化が顕著である大学1年が最も多く、学年が進むにつれて来談者が減少している。

◎学部別 利用者数



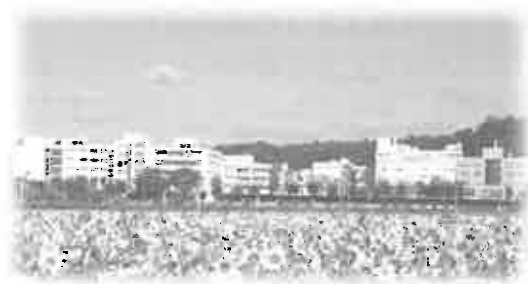
◎まとめ

相談室を訪れた実人数で分かるとおり、各キャンパスの開室日を2日に増やした昨年度（平成22年度）は、過去よりも約2.5倍増加している。専門知識の習得に特化している本学では、学生のスケジュールが過密である。相談室の開室時間や日数を増加したことで来談できる時間的な選択肢が増え、そのことが直接利用する実人数に反映している、と考える。

相談内容に関しては、偏りがあり、過去5年間の来談者全体のうち38%が精神疾患や

神経症が疑われる相談である。しかし精神疾患や神経症の確定診断後は病院治療を優先させるために学生相談室の利用に関しては、中断、終了をしやすい（退学も含む）傾向がある。そのため、疾病と学校生活の両立に対しての支援、不必要な不安の軽減などの情報提供を継続的に行っていく工夫も検討事項の一つである。そのためには、医師や教員との連携が必須になってくるため、その組織づくりは非常に重要である。

また相談室を利用している（あるいは利用していた）学生の8名（0.09%）が退学（進路変更なども含む）している。その後の追跡調査は行っていないが、その後、社会不参加にならないように、休学あるいは退学などの転機にある程度の方向性を決定する支援も大学の学生相談室としての課題である。



運営委員として再認識する 「保健管理センター」の重要性

山田律子*

北海道医療大学 保健管理センター 運営委員

北海道医療大学 看護福祉学部看護学科 教授

今年度（平成23年度）より保健管理センター運営委員を拝命され、改めて保健管理センターの重要性を再認識する昨今です。学生生活を支えていく上で、特に看護学科実習委員長の立場から、学生や教員が安全かつ円滑に実習を遂行できるよう支援する上でも、所長の家子正裕先生はじめ関係者の皆様には大変お世話になっております。

以下では、保健管理センターの二大業務である「健康相談業務」と「保健管理業務」の2側面から、今年度の利用実態や活動をふまえて、ご紹介させていただきます。

1. 健康相談業務

学生たちが充実した大学生活を送るためにも、基盤となる心身の健康管理は不可欠です。保健管理センターの皆様には、教員とは異なる立場と視点から、学生たちの健康を細やかに支えていただき感謝しております。最近では、医療機関の早期受診・対応が必要な学生に対して、保護者であるご家族と担任・学生委員による調整を踏まえてご対応いただいたことが、看護福祉学部教授会でも報告されています。

また、同じく保健管理センター運営委員の今野多美子先生（臨床福祉学科）から、本年報への寄稿に際して、以下のようなメールをいただきました。

「新任して間もなく、メンタル面で病んでいる学生に出会いました。とてもナイーブなことであり、個人情報保護の観点からも、かかわりや支援の仕方には難しさがあります。学生本人が、いよいよ辛くなり教員に訴えてくるか、何らかの行動に至った場合に、はじめて明らかになることが多く、このような悩みをもった学生の把握はどうしても受け身になりがちとなります。一人で悩んでいる学生を護るためには、そのような学生を早期に教員が把握し、早期に対応する必要があると思います。学生と教員との関係性はもちろんのこと、教員間ならびに学生支援課や保健管理センターとの連絡と連携が重要と考えます。」

平成15年度より「保健管理センター」が月曜日から金曜日の毎日10:00～17:00、「学生相談室」も当別キャンパスでは水曜日と木曜日の週2日9:30～16:30と開室回数が増え、学生にとってより利用しやすい環境が整い、成果は相談件数にも反映されているところです。

学生時代に一人の人間として大切にされたという思いは、彼らが将来サービス提供者として活躍する上で重要な素地になると考えております。保健管理センターと教職員と

E-mail: rich@hoku-iryo-u.ac.jp

の連携のもと、各学生が相談をきっかけに一人で悩む苦しみから解放され、生き活きとした学生生活を再獲得できることを願う日々です。

2. 健康管理業務

1) 健康診断：

平成23年8月に実施された保健管理センター運営委員会で、本学部生の受診率低下の原因の一つが、個人票の未返却であることが判明しました。後期ガイダンス直前だったこともあり、同日のうちに学生部長に相談し、各学年担当の学生委員を通じて一斉周知することができました。また、大学院生の受診率低下の原因は、社会人入学者が職場での受診結果を提出していないことが判明し、大学院後期ガイダンスで再度アナウンスいたしました。さらに、なぜこのような事態に至ったのか、学生たちにも確認したところ、配付と回収場所が異なることによる混乱や、健康診断時間帯とJR乗車時刻との関係にも課題があったことがわかりました。今後の対応に反映できれば幸いです。

2) 臨地実習における感染症予防対策：

看護学科の学生たちは、基礎看護学実習、地域看護学実習、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、老年看護学実習、在宅看護論実習Ⅰ・Ⅱの計8領域にわたる実習を、第2学年後期から第4学年に行います。実習施設側の感染症予防対策も高まっている昨今、領域によっては実習施設から学生たちの詳細な抗体検査結果の提示も求められるようになってきました。これまでは、実習領域ごとに学生たちに調査したり、個別に連絡したりしながら、自己申告で対応してきました。しかし、これまでの方法は、教員たちや保健管理センターにとって学生の個別確認による煩雑さや、確実な結果提示による保証といった点でも課題がありました。今後は、学生の事前同意のもと、保健管理センターの名で確実な結果を実習施設側に提示することができるように、今年度、学生支援課の三川氏が調整にあたってくださいています。平成24年度からのシステム化に向けて、実習委員はじめ関係教員一同、期待しているところです。

また先日、学生が実習で受け持たせていただいた対象者のご家族が結核であることがわかり、接触後の対応に関して、何度となく所長の家子先生にご連絡・ご指導を仰ぎながら、教務課や学生支援課とも調整の上、接触した学生と教員も無事対応することができました。今後も実習を行っている以上、遭遇する可能性はゼロではないため、今回の経験を活かして、結核感染症者との接触時の対応マニュアルを作成していければと考えおります。

以上、雑駁ではございますが、今年度の健康管理センターとの関わりを例に述べさせていただきました。

心理科学部における感染症管理

西澤典子^{*}

北海道医療大学 保健管理センター 運営委員
北海道医療大学 心理科学部言語聴覚療法学科 教授

私は、平成20年度4月に本学で勤務をはじめ、以後2期4年間にわたって心理科学部の保健管理センター運営委員を務めてまいりましたので、本学部におけるセンターの活動について、とくに学校感染症を中心とする感染症管理を中心に報告致します。

2008年の麻疹、2009年の新型インフルエンザ流行を契機として、保健管理センターならびに学生支援課の主導によって確立されてきた本学の感染症管理体制は、病院、クリニックの理解、協力のもとに実効的な成果を上げております。入学時における学校感染症ならびに肝炎抗体の検査と、保健管理センターによる結果の集約分析を基盤とし、全学年に対する啓蒙指導活動によるものです。あいの里キャンパスにおいては、専門職の養成に携わる医療系総合大学であることに鑑み、学生を対象に以下の指導を実施しています。

1. 入学時オリエンテーションにおける指導説明

感染症抗体価に関する自己管理は、あくまで自己責任において行うものであるが、医療系現場での業務において、自己の健康管理とともに、感染弱者である患者、小児、高齢者への衛生的配慮として勧奨されるとの説明とともに入学後の抗体検査、接種スケジュールの説明を行う。

2. 抗体価の結果配布の機会における指導説明

判定基準の見方と再度のワクチン接種の推奨とともに、医療大学病院ならびに医科歯科クリニックの協力による当該施設での接種が可能であることを説明し、接種後再度の抗体検査をうけ、結果を保健管理センターに報告することを指導する。

これらの指導は、専門職業人としての健康自己管理の観点、さらに最近では実際に実習先からの抗体価チェック、実習受け入れへの難色を示される事例があることを考えると、必要かつ妥当なものと考えられ、実際に派遣学生の臨地実習先から示された懸念に対して本学の感染症対応を子細にご説明することにより、受け入れを可能とした事例もあります。感染症を中心とする学生の健康管理は、保健管理センターと大学病院、歯科内科クリニックの連携のもとに実現するものでありますので、今後とも両者の緊密な協力体制が維持されることを願っております。

^{*}E-mail : nisizawa@hoku-iryo-u.ac.jp

紙面が付きましたが、本学部センター運営委員の取り組みとして、あいの里キャンパスにおける学生相談室の利用促進があります。これに関しましては、長年、人目につく設置場所を移転すべきであるという問題をセンターで共有して参りましたが、今年度も解決がつかず、懸案事項になっておりますことを指摘しておきたいと思えます。

本学に奉職以来、慣れない業務に奮闘する委員に懇切なご指導を賜り、あいの里キャンパスの健康管理にご理解ご尽力を頂いた、家子センター所長、学生支援課に深謝します。



「北海道医療大学における今年度入学生の麻疹、 風疹、水痘、流行性耳下腺炎ウイルス抗体」 —過去2年間との比較による第4期MRワクチン 予防接種の効果について—

家子正裕，長谷川純子，黒田なをみ
北海道医療大学 保健管理センター

はじめに

平成19年度において、麻疹が10歳から30歳までの若者に流行したことはいまだに記憶に新しい。特に大学生における麻疹罹患者の増加は、一部の大学において学校閉鎖を招くなどして社会問題にもなった⁽¹⁾。若年者における麻疹感染流行の報告を受けて厚生労働省は、平成20年度より中学校1年生に相当する1年間および高校3年生に相当する1年間に第3期および第4期の麻疹と風疹の定期予防接種を行うように推奨することを決定した。この決定は5年間の期限付きではあり、その効果を検証した上で厚生労働省は今後の対策を練るものと思われる。そこで、本検討では第4期麻疹風疹混合（MR）ワクチンの効果を評価する目的で、本学入学生（新入生）を対象とし入学時における麻疹抗体価を過去2年間の結果と比較した。また、麻疹に加えて風疹、水痘、流行性耳下腺炎（ムンプス）抗体の変異についても同様に検討し、若干の知見を得たので報告する。

対象および方法

本学では入学時健康診断で各種ウイルス抗体価の検査をし、実習を行う際の資料としている。本検討では、ここ3年間の浪人生を含む本学入学者で入学時ウイルス抗体検査を受けた学生を対象とした。各年度における対象となった入学者数は、平成19年度入学者（薬学部，看護福祉学部）261名，平成20年度（歯学部，薬学部，看護福祉学部，心理科学部，歯科衛生士学校）617名，平成21年度（歯学部，薬学部，看護福祉学部，心理科学部，歯科衛生士学校）606名である。また，比較対象として，平成21年度春期健康診断にてウイルス抗体価を検査した本学在校生（薬学部4年生，看護福祉学部3年生，心理学部3年生，歯科衛生士学校2年生）441名も合わせて検討した。

麻疹ウイルス抗体はデンカ生研社製ELISAキットで，風疹，ムンプスおよび水痘ウイルス抗体はバイオメリュー社製ELISAキットで測定した。測定結果は，各抗体価の陽性基準をカットオフとし，カットオフ値未満を陰性例（疑陽性を含む），カットオフ値からカットオフ値の2倍未満を弱陽性例，カットオフ値の2倍以上を強陽性例と判断した（表1）。

各年度のそれぞれのウイルス抗体価の比較，平成21年度新入生における各学部間での

比較, および平成21年度における新入生と在校生の各ウイルス抗体価の比較検討は, Mann-Whitney Testを用いて有意検定を行った。P<0.05で有意差ありと判断した。

表1. 各ウイルス抗体価の判断基準

ウイルス項目	陰性	陽性	強陽性	備考
麻疹	<2.0	4.0~7.9	8.0≤	デンカ生研社
風疹	<2.0	4.0~7.9	8.0≤	バイオメリュー社
ムンプス	<0.35	0.50~0.99	1.00≤	バイオメリュー社
水痘	<0.60	0.90~1.79	1.80≤	バイオメリュー社

結果

1. 年度別新入生の各ウイルス抗体価の変動

3年間の本学新入生における各ウイルス抗体価の変動を図1に示す。平成21年度新入生における麻疹ウイルス抗体価の変動は大きく, 平成19, 20年度新入生の強陽性者(60.9, 63.2%)と比べて平成21年度の強陽性者は著しく増加した(93.7%, p<0.001)。麻疹ウイルス抗体価の弱陽性者は平成19, 20年度では14.9, 13.6%だったが, 平成21年度には2.3%と減少した。また陰性者も平成19, 20, および21年度でそれぞれ24.1, 23.2, および4.0%であり, 平成21年度は著しく低下した。一方, 風疹ウイルス抗体では強陽性者の頻度は平成19, 20, および21年度でそれぞれ75.9, 73.9, および73.4%と大きな変動はなかったが, 平成21年度における弱陽性者の有意な増加(18.3%, p<0.01)と陰性者の有意な低下(8.3%, p<0.01)がみられた。ムンプスウイルス抗体は各年度で強陽性者, 弱陽性者および陰性者の頻度に大きな変化は認められなかった。水痘ウイルス抗体は, 平成20年度(強陽性者:81.8%, 弱陽性者:9.2%)と比べて平成21年度で強陽性者の著しい低下(56.4%, p<0.001)と弱陽性者の若干の増加(28.1%, p<0.01)を認めた。

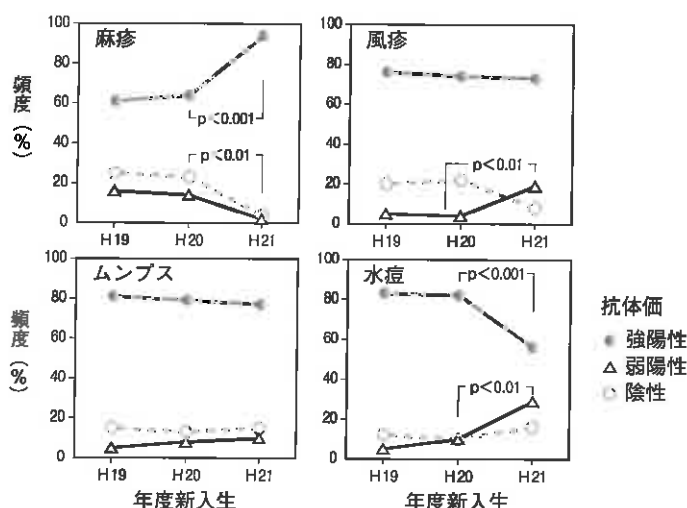


図1. 新入学生の各ウイルス抗体価の変移

平成21年度新入生で麻疹ウイルス抗体価が強陽性であった者の学部別頻度を図2に示す。薬学部、看護福祉学部および歯科衛生生学校では強陽性率はかなり高かったが、歯学部および心理学部で強陽性者がそれぞれ90.5%および91.7%と有意に低下していた。この両学部の新入生における浪人生の割合は他学部よりも高く、これが強陽性者の頻度の低下に影響したものと考えられる。

2. 平成21年度と新入生と在校生におけるウイルス抗体価の比較

平成21年度健康診断における新入生と在校生の各ウイルス抗体価の検査結果を表2に示す。麻疹ウイルス抗体においては、新入生における強陽性率が有意に高い結果であった。陰性率は若干在校生が高いものの有意差を認めなかった。風疹およびムンプスウイルス抗体価では、在校生で強陽性率が若干高く陰性率が若干低い傾向を示したが、新入生の結果と有意な差を認めなかった。一方、水痘ウイルス抗体価は、在校生と比較して新入生で強陽性率が有意に低く、かつ陰性率が有意に高い結果であった。

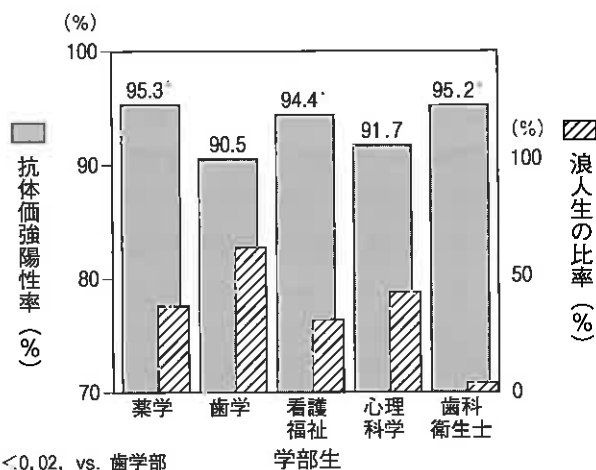


図2. 平成21年度入学生の麻疹ウイルス抗体の強陽性率と浪人生の比率

表2. 平成21年度健康診断における新入生と在校生の比較

(新入生：606名，在校生：441名)

麻疹	新入生		在校生	
	新入生	在校生	新入生	在校生
陰性	4.0%	7.2	8.3%	5.7
弱陽性	2.3	6.6	18.3	17.0
強陽性	93.7*	86.2*	73.4	77.3

ムンプス	新入生		在校生	
	新入生	在校生	新入生	在校生
陰性	14.0%	9.5	15.5%**	5.9**
弱陽性	9.9	10.7	28.1	29.9
強陽性	76.1	78.8	56.4*	64.2*

*, *: p < 0.05, **: p < 0.01

考案

平成20年度から厚生労働省の推奨のもと第4期MRワクチンが高校3年生を対象に行

われ、その最初の入学生が平成21年度新入生であった。その評価を目的として平成21年度新入生のウイルス抗体価を前年および前々年度入学生と比較検討した。麻疹ウイルス抗体価の十分な感染阻止域は、過去の報告から抗体価における陽性カットオフ値の2倍以上と推奨されている^(2,3)。本学でもワクチン接種後の目標抗体価は陽性カットオフ値の2倍以上である強陽性としているので、抗体価の比較は陰性（疑陽性）、弱陽性および強陽性に分類して行った。本検討では、麻疹ウイルス抗体価のみならず他のウイルス抗体価も陰性、弱陽性および強陽性と分類し、強陽性を目標として検討した。

本学におけるここ3年間の新入生の麻疹ウイルス抗体価をみると、平成21年度は明らかに麻疹ウイルス抗体価の強陽性者が増加し陰性者が減少している。第4期MRワクチン接種の効果は十分に得られていると考えられる。平成21年度の新入生と在校生における麻疹ウイルス抗体の比較でも、在校生は過去の入学時の検査結果に従ってワクチン接種を勧められているにもかかわらず、新入生より強陽性率は低く、また陰性率も高い結果を認めていた。この結果も第4期MRワクチン接種の有用性を明確に示す根拠であると考えられる。また、麻疹ウイルス抗体強陽性者の頻度が低い学部では、第4期MRワクチン接種をする機会の少なかった浪人生の比率が高く、この結果も第4期MRワクチン接種の良好な効果を示すものと思われる。

一方、風疹ウイルス抗体では強陽性者は前年および前々年度と比べ大きな変動はなかったものの、明らかに弱陽性者が増加し陰性者が減少していた。これも第4期MRワクチン接種の効果であると考えられるが、麻疹での結果と比べると強陽性者の増加が認められなかったことより、MRワクチンの風疹に対する抗体産生刺激は麻疹の場合より弱い可能性が示唆された。

平成21年度新入生の水痘ウイルス抗体価は、過去2年の新入生の結果と比べて強陽性者の頻度は有意に低下していた。弱陽性者は若干増加しているが陰性者は確実に増加傾向であり、在校生との比較でも明らかに陰性者は増加している。大学生における水痘ウイルス抗体の低下は本学特有の状況ではなく、他大学の検討でも水痘ウイルス抗体陰性者の増加は認められているようである⁽⁴⁾。数年前の麻疹感染の流行の様に、近い将来に水痘感染が大学生において問題になり、何らかの対策を講じる必要が生じる可能性は否定できない。

大学における健康管理上、これらすべてのウイルス感染に対してワクチン接種による抗体形成を必要とするのか、またもし必要とするなら目標とすべき抗体価をどこに設定すれば良いのか、現状では明確な解答はない。今後これらの点について検証していきたいと考えており、今後の課題としたい。

参考文献

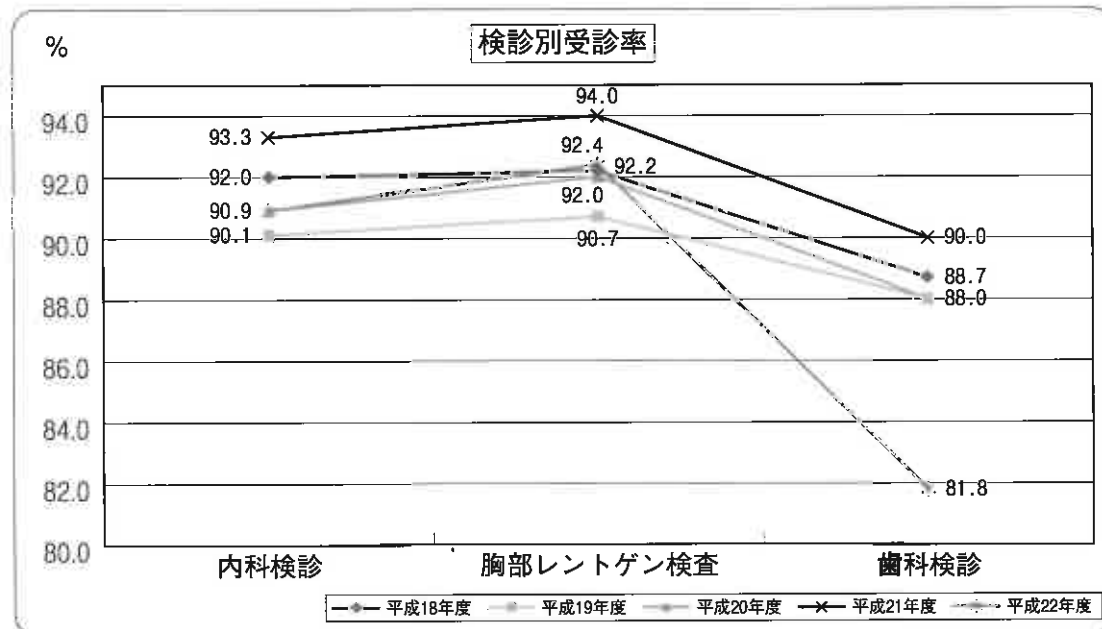
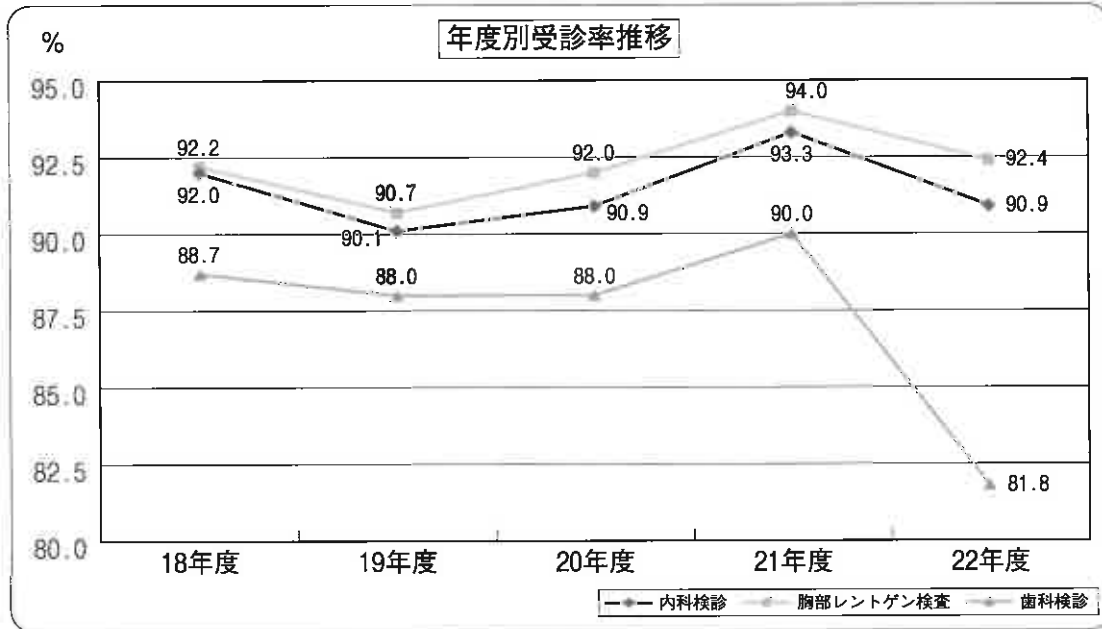
- (1) 国立感染症研究所. 麻疹2006~2007年. IASR (病原微生物検出情報) 9 : 239-240, 2007.
- (2) 宮津光伸. 小児感染の変遷と予防接種. 現代医学54 : 343-350, 2006.
- (3) 山本孝吉, 他. 滋賀大学生における麻疹罹患歴, 予防接種歴と抗体検査成績の関係に関する検討. Campus Health45 : 215-220, 2008.
- (4) 松井祥子, 他. 医療系大学における各種ウイルス抗体価の推移. Campus Health 45 : 63-68, 2008.

○学生健康診断受診状況推移（平成18年度～22年度）

1. 年度別受診率

(%)

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
内科検診	92.0	90.1	90.9	93.3	90.9
胸部レントゲン検査	92.2	90.7	92.0	94.0	92.4
歯科検診	88.7	88.0	88.0	90.0	81.8

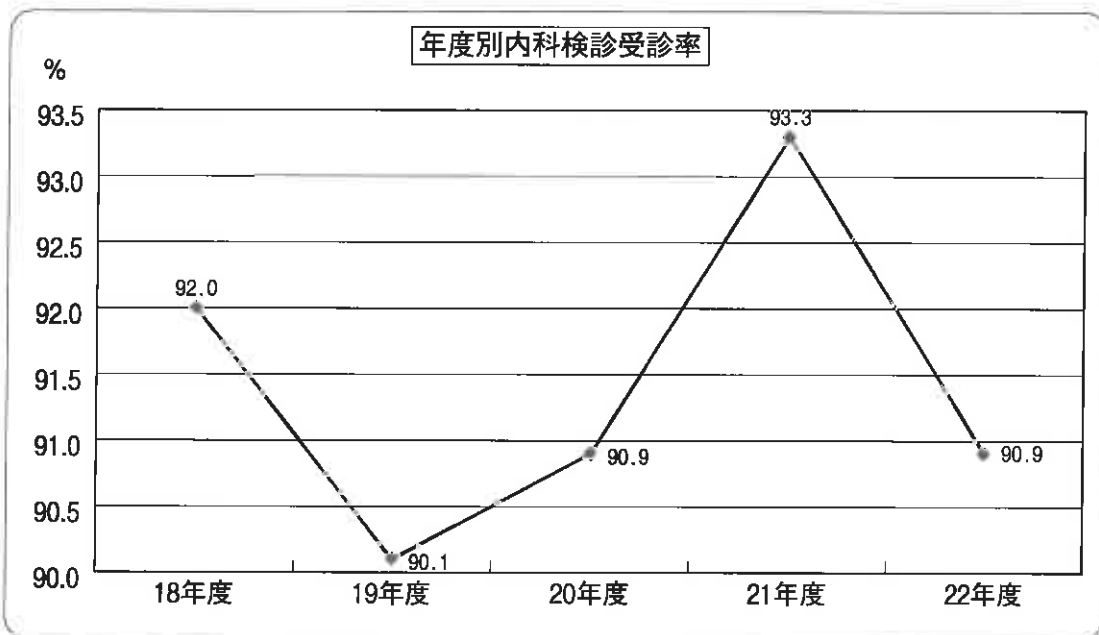
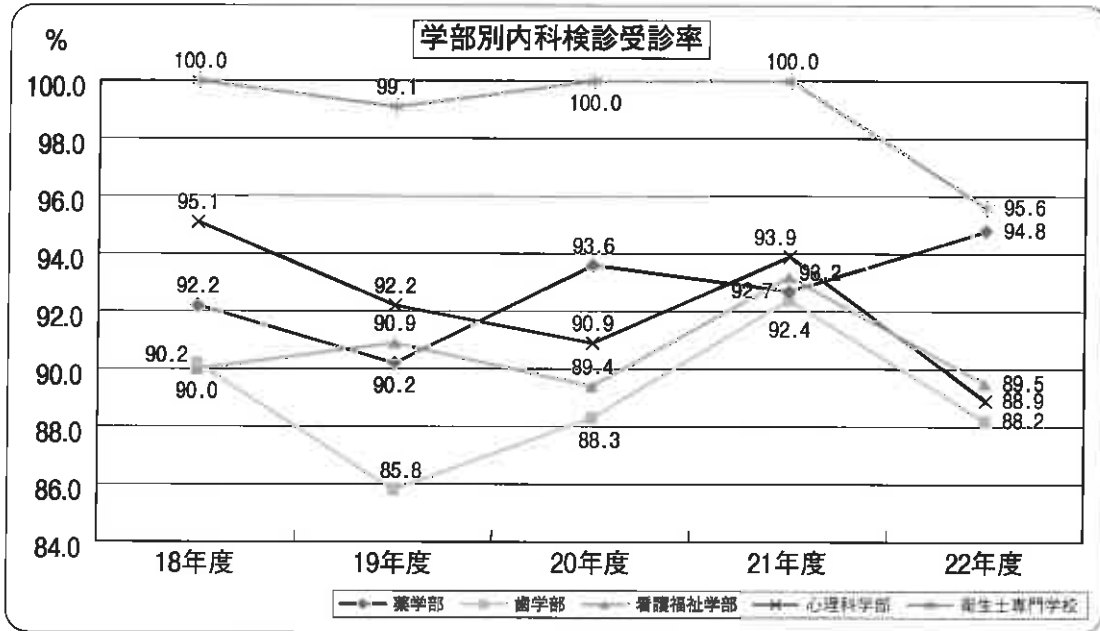


2. 学部別・検診別受診状況

①内科検診

(%)

	全体	薬	歯	看	心	衛
18年度	92.0	92.2	90.2	90.0	95.1	100.0
19年度	90.1	90.2	85.8	90.9	92.2	99.1
20年度	90.9	93.6	88.3	89.4	90.9	100.0
21年度	93.3	92.7	92.4	93.2	93.9	100.0
22年度	90.9	94.8	88.2	89.5	88.9	95.6

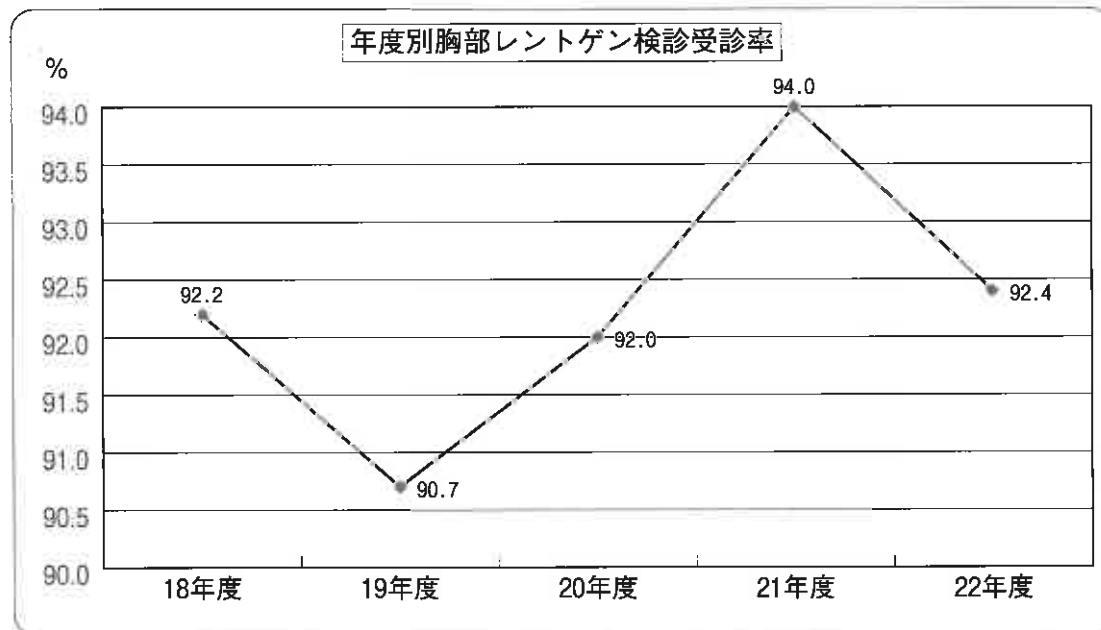
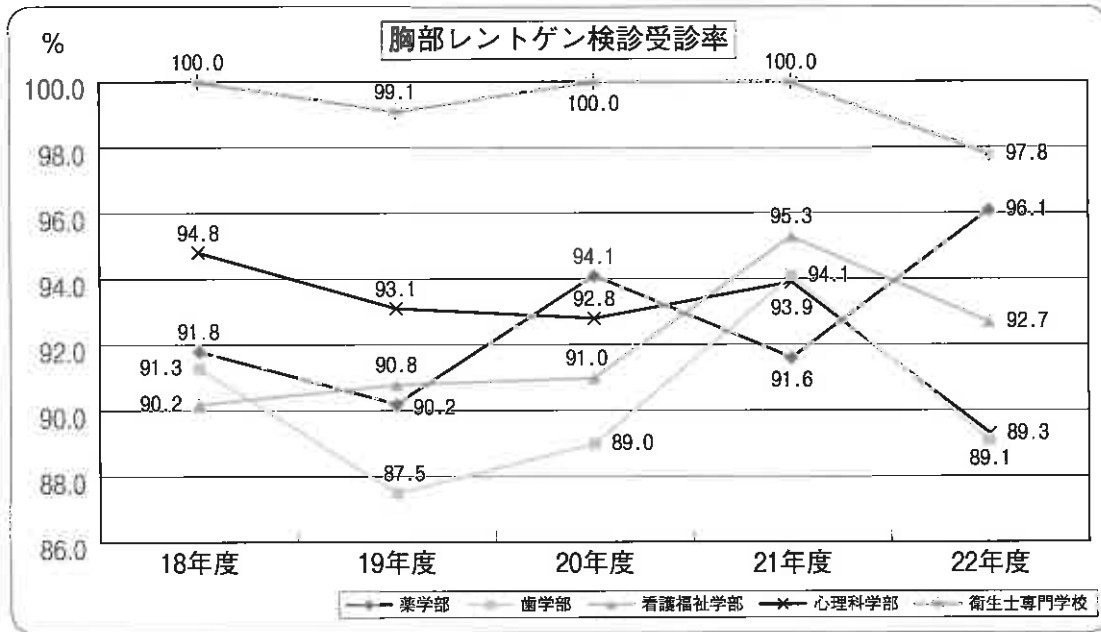


薬=薬学部
 歯=歯学部
 看=看護福祉学部
 心=心理科学部
 衛=歯学部附属歯科衛生士専門学校

②胸部レントゲン検査

(%)

	全体	薬	歯	看	心	衛
18年度	92.2	91.8	91.3	90.2	94.8	100.0
19年度	90.7	90.2	87.5	90.8	93.1	99.1
20年度	92.0	94.1	89.0	91.0	92.8	100.0
21年度	94.0	91.6	94.1	95.3	93.9	100.0
22年度	92.4	96.1	89.1	92.7	89.3	97.8

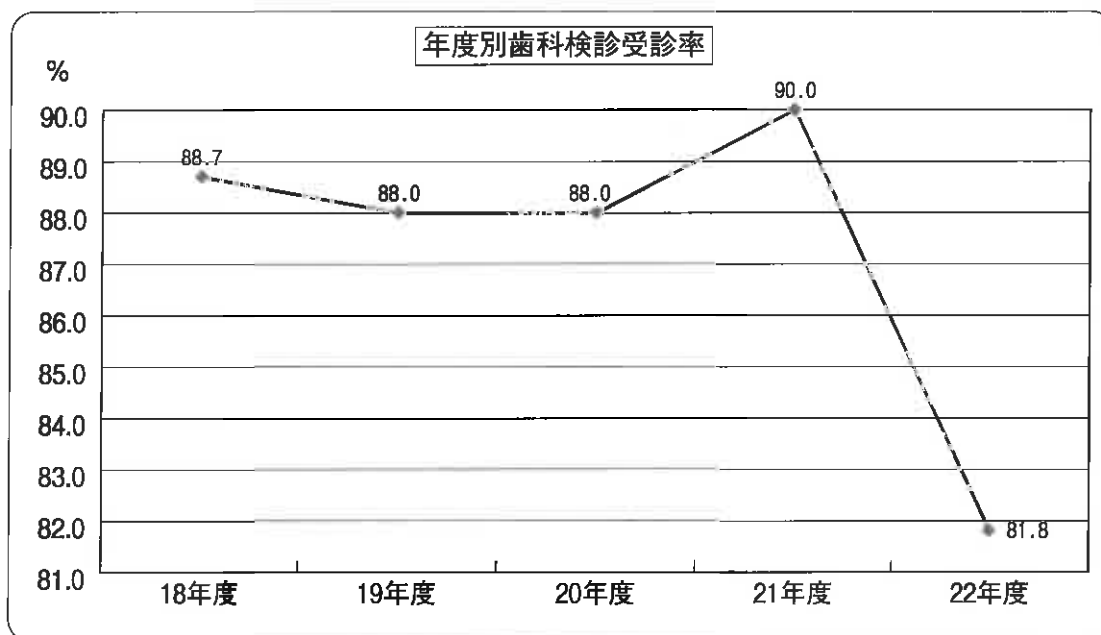
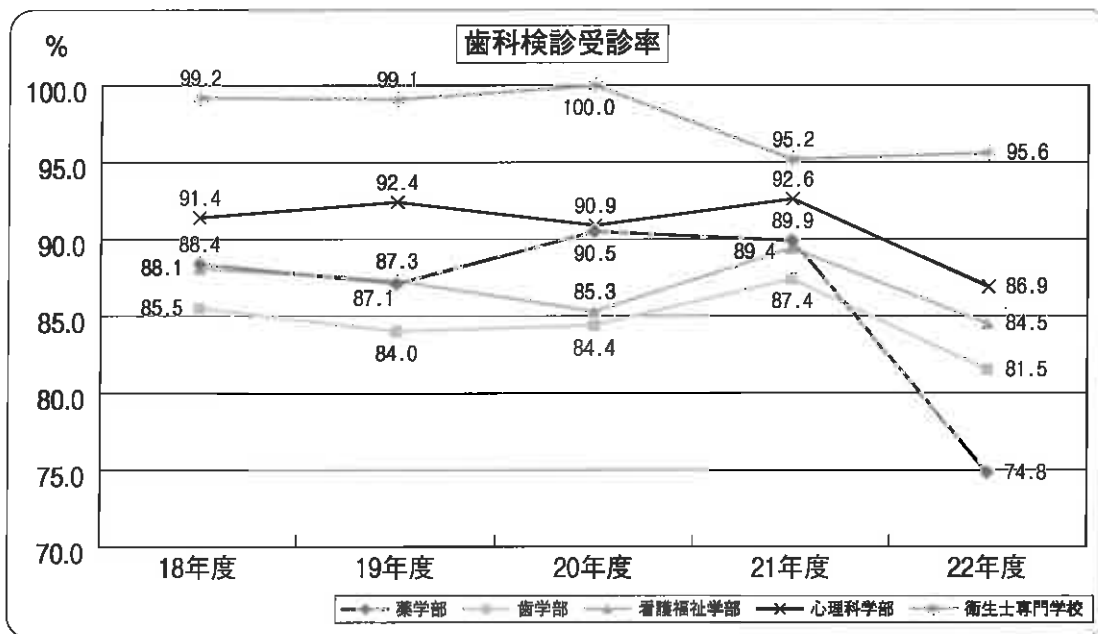


薬＝薬学部
 歯＝歯学部
 看＝看護福祉学部
 心＝心理科学部
 衛＝歯学部附属歯科衛生士専門学校

③ 歯科検診

(%)

	全体	薬	歯	看	心	衛
18年度	88.7	88.4	85.5	88.1	91.4	99.2
19年度	88.0	87.1	84.0	87.3	92.4	99.1
20年度	88.0	90.5	84.4	85.3	90.9	100.0
21年度	90.0	89.9	87.4	89.4	92.6	95.2
22年度	81.8	74.8	81.5	84.5	86.9	95.6



薬＝薬学部
 歯＝歯学部
 看＝看護福祉学部
 心＝心理科学部
 衛＝歯学部附属歯科衛生士専門学校

○平成22年度学生健康診断受診状況

1. 学部別受診状況

学部等	学年	学生数 対象者	内科検診				胸部X線検査			
			受診者			受診率	受診者			受診率
			定期	他	計		定期	他	計	
薬学部・大学院	1	186	176		176	94.6%	180		180	96.8%
	2	173	164		164	94.8%	165		165	95.4%
	3	196	179		179	91.3%	180		180	91.8%
	4	140	139		139	99.3%	139		139	99.3%
	5	142	136	2	138	97.2%	139	3	142	100.0%
	修1	5	3		3	60.0%	3		3	60.0%
	修2	19	18		18	94.7%	19		19	100.0%
	博1	2	2		2	100.0%	2		2	100.0%
	博2	1	1		1	100.0%	1		1	100.0%
	博3	2	1		1	50.0%	1		1	50.0%
小計		866	819	2	821	94.8%	829	3	832	96.1%
歯学部・大学院	1	52	45		45	86.5%	45		45	86.5%
	2	81	68		68	84.0%	68		68	84.0%
	3	94	90		90	95.7%	90		90	95.7%
	4	110	95		95	86.4%	95		95	86.4%
	5	90	89		89	98.9%	90		90	100.0%
	6	103	100		100	97.1%	100		100	97.1%
	博1	8	4		4	50.0%	7		7	87.5%
	博2	15	9		9	60.0%	8		8	53.3%
	博3	12	6		6	50.0%	7		7	58.3%
	博4	12	3		3	25.0%	4		4	33.3%
小計		577	509		509	88.2%	514		514	89.1%
看護福祉学部・大学院	看1	116	105		105	90.5%	113		113	97.4%
	看2	114	111		111	97.4%	111		111	97.4%
	看3	113	103		103	91.2%	105		105	92.9%
	看4	100	91		91	91.0%	93	1	94	94.0%
	福1	70	68		68	97.1%	69		69	98.6%
	福2	63	56		56	88.9%	61		61	96.8%
	福3	78	73		73	93.6%	73		73	93.6%
	福4	81	66		66	81.5%	69		69	85.2%
	修1	19	13	2	15	78.9%	13	2	15	78.9%
	修2	19	9		9	47.4%	9		9	47.4%
	博1									
	博2	2								
	博3	4					3		3	75.0%
小計		779	695	2	697	89.5%	719	3	722	92.7%
心理科学部・大学院	心1	82	70		70	85.4%	71		71	86.6%
	心2	67	62		62	92.5%	62		62	92.5%
	心3	69	65		65	94.2%	65		65	94.2%
	心4	72	61		61	84.7%	61		61	84.7%
	言1	79	69		69	87.3%	68	1	69	87.3%
	言2	53	52		52	98.1%	52		52	98.1%
	言3	84	79		79	94.0%	79		79	94.0%
	言4	55	51		51	92.7%	52		52	94.5%
	修1	11	8		8	72.7%	8		8	72.7%
	修2	19	14		14	73.7%	14		14	73.7%
	博1	3								
	博2									
	博3	3								
小計		597	531		531	88.9%	532	1	533	89.3%
衛	1	33	32		32	97.0%	32		32	97.0%
	2	57	54		54	94.7%	56		56	98.2%
	小計		90	86		86	95.6%	88		88
合計		2909	2640	4	2644	90.9%	2682	7	2689	92.4%

看＝看護学科

福＝臨床福祉学科

心＝臨床心理学科

言＝言語聴覚療法学科

衛＝歯学部附属歯科衛生士専門学校

修＝大学院修士課程

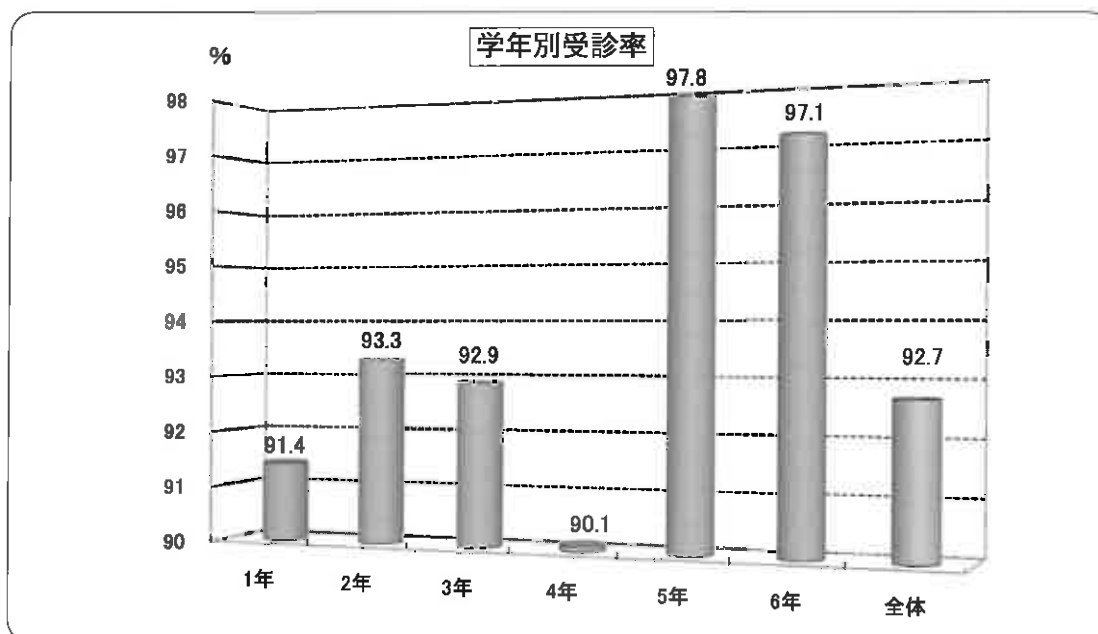
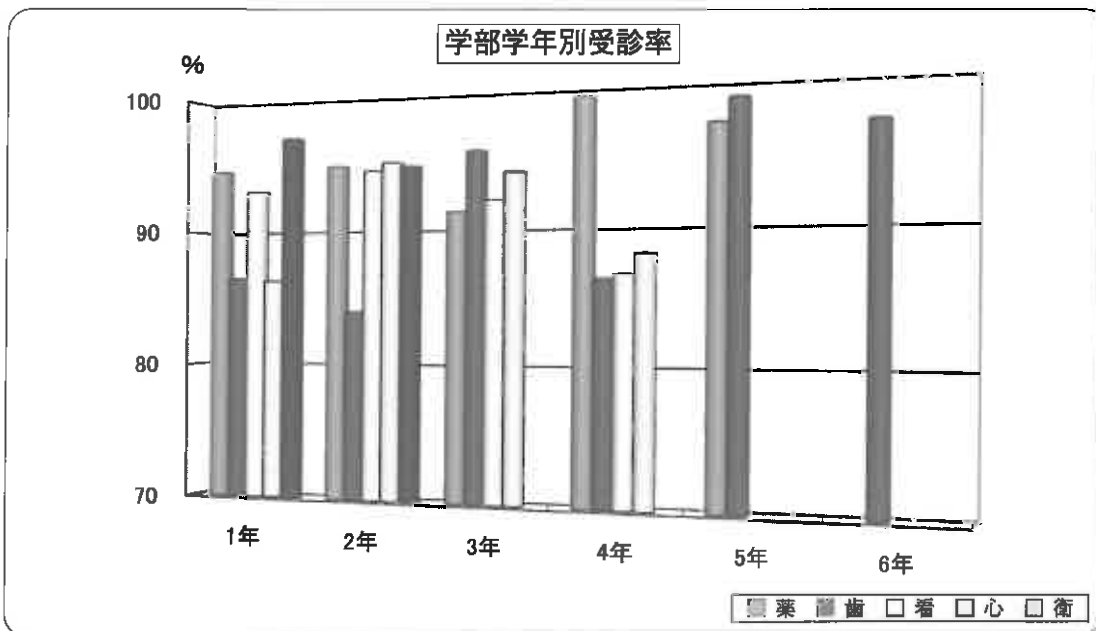
博＝大学院博士課程

2. 学年・検診別受診状況

①内科検診受診状況

(学部生/%)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
薬	94.6	94.8	91.3	99.3	97.2		95.1
歯	86.5	84.0	95.7	86.4	98.9	97.1	91.9
看	93.0	94.4	92.1	86.7			91.6
心	86.3	95.0	94.1	88.2			90.7
衛	97.0	94.7					95.6
全体	91.4	93.3	92.9	90.1	97.8	97.1	92.7

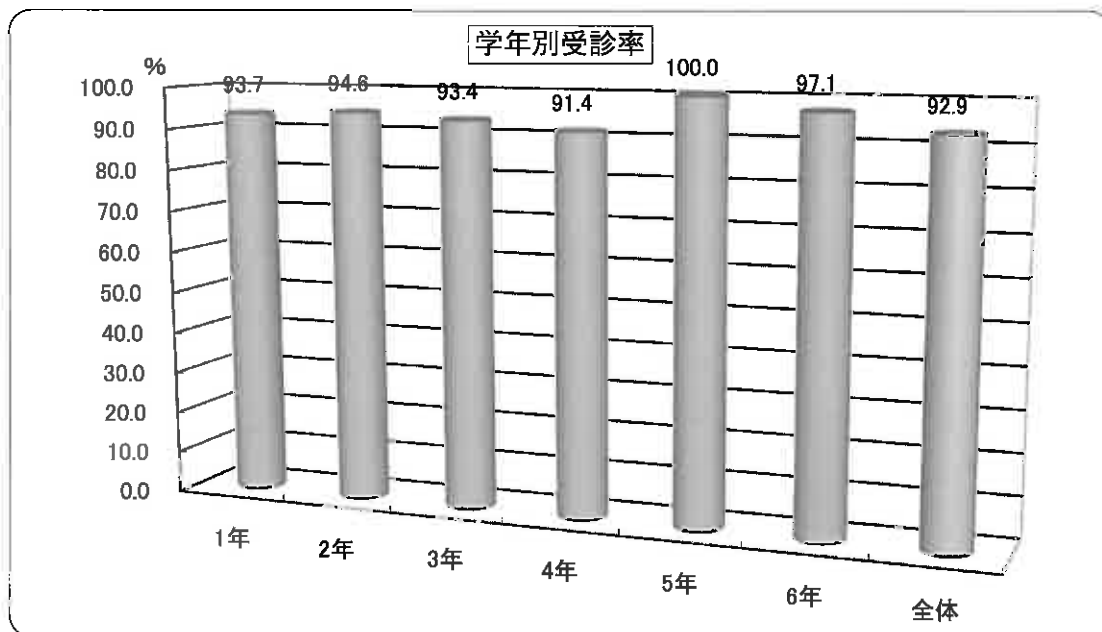
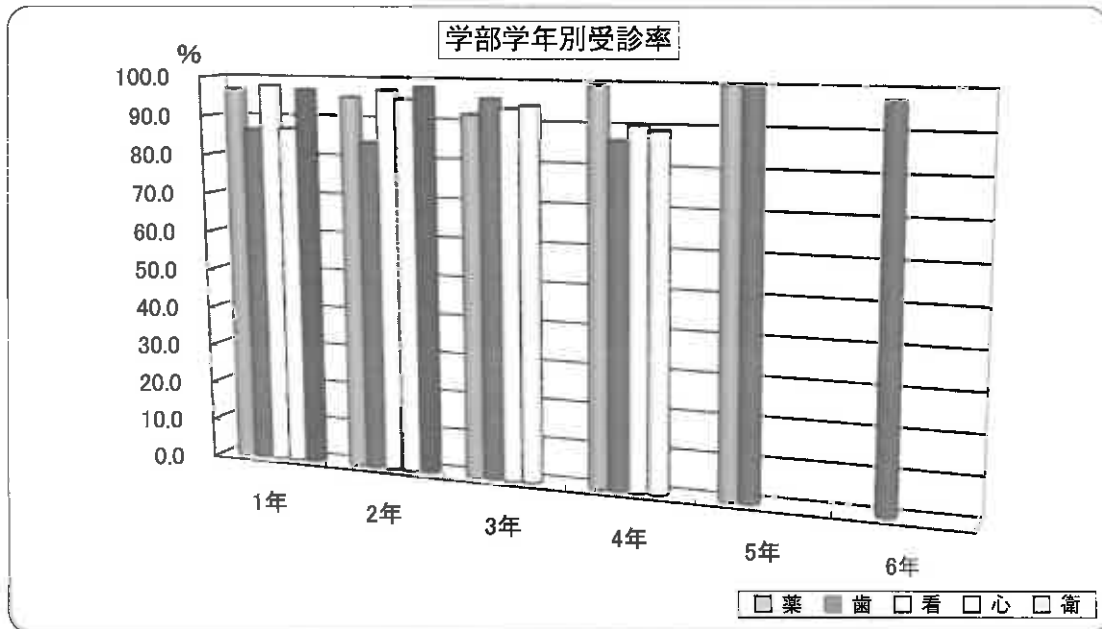


薬=薬学部
 歯=歯学部
 看=看護福祉学部
 心=心理科学部
 衛=歯学部附属歯科衛生士専門学校

②胸部レントゲン検査学年別受診状況

(学部生/%)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
薬	96.8	95.4	91.8	99.3	100.0		96.3
歯	86.5	84.0	95.7	86.4	100.0	97.1	92.1
看	97.8	97.2	93.2	90.1			94.6
心	87.0	95.0	94.1	89.0			91.1
衛	97.0	98.2					97.7
全体	93.7	94.6	93.4	91.4	100.0	97.1	92.9

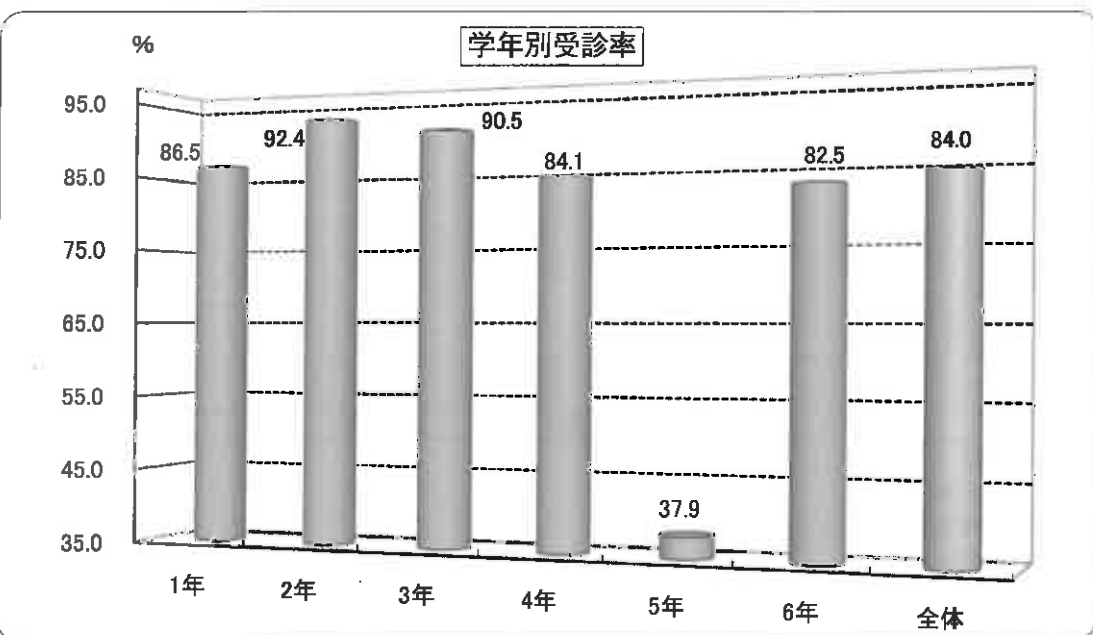
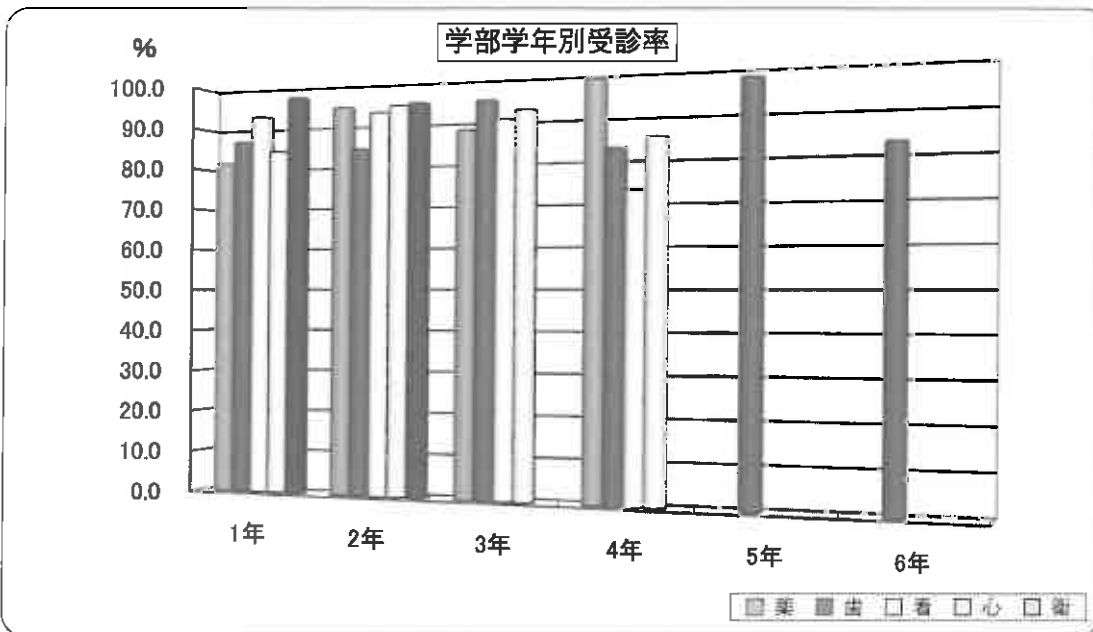


薬＝薬学部
 歯＝歯学部
 看＝看護福祉学部
 心＝心理科学部
 衛＝歯学部附属歯科衛生士専門学校

③ 歯科検診学年別受診状況

(学部生/%)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
薬	81.2	94.2	87.8	98.6			74.6
歯	86.5	84.0	94.7	82.7	97.8	82.5	87.9
看	92.5	92.7	90.1	72.9			87.0
心	83.9	94.2	92.2	85.0			88.6
衛	97.0	94.7					95.6
全体	86.5	92.4	90.5	84.1	37.9	82.5	84.0



薬=薬学部
 歯=歯学部
 看=看護福祉学部
 心=心理科学部
 衛=歯学部附属歯科衛生士専門学校

3. 有所見者状況

学部等	学年	内科検診			胸部レントゲン検査			備考
		受診者	二次	有所見率	受診者	精検	要精検率	
薬学部・大学院	1	176	3	1.7%	180	1	0.6%	1
	2	164	2	1.2%	165			
	3	179	3	1.7%	180			
	4	139	1	0.7%	139			
	5	138	3	2.2%	142			
	修1	3			3			
	修2	18			19			
	博1	2			2			
	博2	1			1			
歯学部・大学院	1	45	2	4.4%	45			
	2	68	3	4.4%	68	1	1.5%	1
	3	90	3	3.3%	90			
	4	95			95			
	5	89			90			
	6	100	1	1.0%	100	1	1.0%	1
	博1	4			7			
	博2	9			8			
	博3	6	1	16.7%	7			
看護福祉学部・大学院	看1	105	4	3.8%	113			
	看2	111	6	5.4%	111			
	看3	103	1	1.0%	105			
	看4	91	3	3.3%	94			
	福1	68			69	1	1.4%	1
	福2	56	2	3.6%	61			
	福3	73	2	2.7%	73	1	1.4%	1
	福4	66			69			
	修1	15	3	20.0%	15			
	修2	9	1	11.1%	9			
	博1							
	博2							
	博3				3			
心理科学部・大学院	心1	70			71	1	1.4%	1
	心2	62	3	4.8%	62			
	心3	65	1	1.5%	65			
	心4	61	1	1.6%	61			
	言1	69	4	5.8%	69			
	言2	52	2	3.8%	52			
	言3	79	7	8.9%	79			
	言4	51		0.0%	52			
	修1	8		0.0%	8			
	修2	14	1	7.1%	14			
	博1							
	博2							
	博3							
衛	1	32			32			
	2	54	2	3.7%	56			
計		2644	65	2.5%	2689	6	0.2%	6

看＝看護学科

福＝臨床福祉学科

心＝臨床心理学科

言＝言語聴覚療法学科

衛＝歯学部附属歯科衛生士専門学校

修＝大学院修士課程

博＝大学院博士課程

4. 血液検査有所見者状況

学部 学年等	対象者	受診状況		有所見状況		肝機能		血球他				血小板		備考	
		受診者	受診率	有所見者	率	有所見	率	貧血	率	その他	率	有所見	率		
薬	1	182	182	100.0%	53	29.1%	7	3.8%	32	17.6%	20	11.0%	11	6.0%	
	編3	11	11	100.0%	3	27.3%			2	18.2%	1	9.1%			
	4	140	138	98.6%	43	31.2%	10	7.2%	12	8.7%	14	10.1%	10	7.2%	
	院	7	4	57.1%	3	75.0%	1	25.0%		0.0%	2	50.0%			
歯	1	48	48	100.0%	22	45.8%	10	20.8%	9	18.8%	3	6.3%	8	16.7%	
	編2	5	5	100.0%	4	80.0%	1	20.0%			1	20.0%	2	40.0%	
	4	110	99	90.0%	34	34.3%	18	18.2%	11	11.1%	9	9.1%	10	10.1%	
	院	8													
看	看護1	115	115	100.0%	27	23.5%	2	1.7%	9	7.8%	10	8.7%	9	7.8%	
	看護3	113	107	94.7%	40	37.4%	10	9.3%	7	6.5%	21	19.6%	13	12.1%	
	福祉1	70	68	97.1%	26	38.2%	8	11.8%	8	11.8%	12	17.6%	5	7.4%	
	福祉3	78	75	96.2%	32	42.7%	6	8.0%	7	9.3%	21	28.0%	8	10.7%	
	院	19	17	89.5%	6	35.3%	2	11.8%	1	5.9%	5	29.4%	1	5.9%	
心	心理1	75	75	100.0%	14	18.7%	4	5.3%	6	8.0%	6	8.0%	2	2.7%	
	編3	1	1	100.0%											
	言語1	70	69	98.6%	23	33.3%			5	7.2%	8	11.6%	13	18.8%	
	編3	10	10	100.0%	2	20.0%			1	10.0%			2	20.0%	
	院	14	12	85.7%	5	41.7%	3	25.0%	1	8.3%	1	8.3%	1	8.3%	
衛	1	33	33	100.0%	12	36.4%	1	3.0%	2	6.1%	8	24.2%	2	6.1%	
	2	57	56	98.2%	17	30.4%	3	5.4%	2	3.6%	6	10.7%	7	12.5%	
計	1166	1125	96.5%	366	32.5%	86	7.6%	115	10.2%	148	13.2%	104	9.2%		

薬＝薬学部

歯＝歯学部

看＝看護福祉学部

看護＝看護学科

福祉＝臨床福祉学科

心＝心理科学部

心理＝臨床心理学科

言語＝言語聴覚療法学科

衛＝歯学部附属歯科衛生士専門学校

編＝編入

院＝大学院

5. 血液・感染症検査状況

学部 学年等	肝炎						感染症								備考		
	受診数	HBS-AG		HBS-AB		HCV-3		受診数	麻疹		風疹		ムンプス			水痘	
		(+)	率	(+)	率	(+)	率		(+)	率	(+)	率	(+)	率		(+)	率
薬	1	182			2	1.1%		182	180	98.9%	171	94.0%	149	81.9%	158	86.8%	
	編3	11						11	9	81.8%	10	90.9%	10	90.9%	10	90.9%	
	4	138			33	23.9%		138	127	92.0%	127	92.0%	125	90.6%	124	89.9%	
	院	4						4	4	100.0%	4	100.0%	3	75.0%	4	100.0%	
歯	1	48						48	48	100.0%	46	95.8%	41	85.4%	43	89.6%	
	編2	5						5	4	80.0%	4	80.0%	4	80.0%	3	60.0%	
	4	99			40	40.4%		99	84	84.8%	79	79.8%	83	83.8%	95	96.0%	
	院																
看	看護1	115			1	0.9%		115	112	97.4%	113	98.3%	98	85.2%	104	90.4%	
	看護3	107			63	58.9%		107	105	98.1%	104	97.2%	104	97.2%	104	97.2%	
	福祉1	68						68	68	100.0%	63	92.6%	56	82.4%	63	92.6%	
	福祉3	75			2	2.7%		75	67	89.3%	62	82.7%	64	85.3%	61	81.3%	
	院	17	1	5.9%	9	52.9%		17	17	100.0%	14	82.4%	15	88.2%	16	94.1%	
心	心理1	75			2	2.7%		75	74	98.7%	71	94.7%	67	89.3%	68	90.7%	
	編3	1			1	100.0%		1	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	
	言語1	69			2	2.9%		69	69	100.0%	67	97.1%	59	85.5%	61	88.4%	
	編3	10						10	9	90.0%	9	90.0%	8	80.0%	9	90.0%	
	院	12						12	11	91.7%	12	100.0%	12	100.0%	12	100.0%	
衛	1	33						33	33	100.0%	31	93.9%	31	93.9%	30	90.9%	
	2	56			51	91.1%		56	56	100.0%	56	100.0%	56	100.0%	56	100.0%	
計		1125	1	0.1%	206	18.3%		1125	1078	95.8%	1044	92.8%	986	87.6%	1022	90.8%	

薬＝薬学部

歯＝歯学部

看＝看護福祉学部

看護＝看護学科

福祉＝臨床福祉学科

心＝心理科学部

心理＝臨床心理学科

言語＝言語聴覚療法学科

衛＝歯学部附属歯科衛生士専門学校

編＝編入

院＝大学院

検査対象者の推移

平成19年度 新入生全員に肝炎抗体検査実施

平成20年度 麻疹流行により、全学生対象に小児4抗体検査実施

平成21年度 新入生全員に小児4抗体検査実施

平成23年度 保健管理センター概況

平成23年

- 4月 血液検査（全学部および歯学部附属歯科衛生士専門学校の一部学年）
肝炎採血・ガイダンス（歯学部附属歯科衛生士専門学校）
- 5月 健康診断（薬学部および心理科学部の一部学年）
肝炎ワクチン接種（歯学部および歯学部附属歯科衛生士専門学校の一部学年）
保健管理センター運営会議開催
- 6月 健康診断（全学部および歯学部附属歯科衛生士専門学校全学年）
肝炎ワクチン接種（歯学部の一部学年）
大学祭およびオープンキャンパス開催時の急病等対応
- 8月 オープンキャンパス開催時の急病等対応
保健管理センター運営会議開催
第49回全国大学保健管理協会北海道地方部研究集会参加
- 9月 血液検査（看護福祉学部の一部学年）
肝採血検査（心理科学部の一部学年）
オープンキャンパス開催時の急病等対応
- 10月 保健管理センター副所長発令（薬学部 飯塚健治准教授）
肝採血検査（歯学部の一部学年）
保健管理センター・保健室業務日誌ネットワーク閲覧システム構築
- 11月 肝炎ワクチン接種（歯学部の一部学年）
インフルエンザワクチン接種指導・勧奨（全学アナウンス・ホームページ等）
保健管理センター年報バックナンバーweb公開開始
保健管理センターホームページ一部リニューアル
保健管理センター・学生相談室から利用にあたってのアナウンスをリニューアル
保健管理センター・学生相談室のweb予約バナーを大学ホームページのトップに配置
大学教育開発センター主催「平成23年度教育開発セミナー・発達障害—自閉症スペクトラム障害の理解と対応—」に保健管理センター・学生相談室カウンセラーが助言者参加
- 12月 保健管理センター運営会議開催

平成24年

- 3月 保健管理センター年報（2011年版）発行

保健管理センター構成員

(平成23年度)

	氏 名	所 属 等
所長	家子正裕	歯学部 教授
副所長	飯塚健治	薬学部 准教授
運営委員会委員	島村佳一	薬学部 教授
運営委員会委員	伊藤修一	歯学部 准教授
運営委員会委員	高橋伸彦	歯学部 准教授
運営委員会委員	山田律子	看護福祉学部 教授
運営委員会委員	今野多美子	看護福祉学部 講師
運営委員会委員	西澤典子	心理科学部 教授
運営委員会委員	堀内ゆかり	心理科学部 准教授
運営委員会委員	伊藤昭英	個体差医療科学センター 教授
運営委員会委員	杉原佳奈	歯学部附属歯科衛生士専門学校 専任教員
運営委員会委員	飛岡範至	経営企画部 部長
運営委員会委員	鈴木英二	学務部 部長
保健師	長谷川純子	
看護師	黒田なをみ	
学生相談室 学生相談員	森近三智恵	
学生相談室 学生相談員	根本大輔	
事務所管	学務部学生支援課	

保健管理センター関連規程集

[保健管理センター規程]

平成7年11月28日制定

(目的)

第1条 保健管理センター（以下「センター」という。）は、本学園の学生及び職員の保健管理に関する業務を行うことを目的とする。

(事業)

第2条 センターは前条の目的を遂行するため、保健管理事業及び健康相談事業を行う。

(業務)

第3条 保健管理事業及び健康相談事業として、次の業務を行う。

(1) 保健管理業務

- ア 保健管理に関する実施計画の企画・立案
- イ 定期及び臨時の健康診断並びにその事後措置
- ウ 学内の環境衛生及び感染症の予防についての指導
- エ 保健管理に関する調査研究
- オ 応急措置
- カ その他保健管理に関する必要な専門的業務

(2) 健康相談業務

- ア 健康に関する相談
- イ 精神衛生に関する相談

(職員)

第4条 センターに、所長その他必要な職員を置く。

(所長)

第5条 所長は、本学教授のうちから、運営委員会の議を経て学長が委嘱する。

- 2 所長は、保健管理センターの業務を総轄する。
- 3 所長は、学校医を兼務する。
- 4 所長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(副所長)

第6条 副所長は、本学教授または准教授のうちから、運営委員会の議を経て学長が委嘱する。

2 副所長は、所長を補佐して保健管理センター業務全般に従事する。

3 副所長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第7条 センターの運営に関する具体的事項を審議するため、保健管理センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。運営委員会に関する規程は別に定める。

(分室)

第8条 必要があるときは、センターの分室を置くことができる。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、評議会が決定する。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

[保健管理センター運営委員会規程]

平成7年11月28日制定

(目的)

第1条 この規程は、保健管理センター規程第6条に基づき、保健管理センター運営委員会（以下「運営委員会」という）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(組織)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 所長
- (2) 副所長
- (3) 各学部教授会で選ばれた教授を含む専任教員各2名
 個体差医療科学センター運営審議会で選ばれた教授1名
 歯学部附属歯科衛生士専門学校校長が推薦した専任教員1名
- (4) 経営企画部長、学務部長
 - 2 第1項第2号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
 - 3 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 4 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求めてその意見を聴くことができる。

(審議事項)

第3条 運営委員会は、センターの運営に関し次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学生及び職員の保健管理の基本方針に関する事
- (2) 年間事業計画に関する事
- (3) 所長ならびに副所長の選考に関する事
- (4) その他所長が必要と認める事項

(委員長)

第4条 委員長は所長をもって充てる。

- 2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が議長となる。
- 4 委員長が必要と認めたときは、運営委員会の議を経て委員以外の者を会議に出席させることができる。

(議事運営)

第5条 運営委員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

(改廃等)

第6条 この規程に定めるもののほか、必要な事項又は改廃については、運営委員会の議を経て評議会が決定する。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

「保健管理センター」から「管理」が消えた理由

家子正裕*

北海道医療大学 保健管理センター所長

北海道医療大学歯学部 教授／

北海道医療大学歯科内科クリニック副院長・内科医長

北海道医療大学病院臨床検査部長／北海道医療大学産業医

「保健管理センター」はそれなりの大学であれば、どこの大学にも一応組織されている機関であると思います。実際に、日本全国大学保健管理協会という組織があり、学校保健のあり方などを協議、指導しています。

近年、各大学の名称が少し変わってきています。「保健管理センター」から「保健センター」へ。「管理」という言葉が削除されています。確かに「管理」という言葉は個人の自由を奪う響きがあります。それでは「保健センター」は何を行っているのでしょうか？。学生、教職員の健康維持にかかわる一般の情報源ということでしょうか？。定期健康診断を行い、その情報を必要に応じて還元する。健康「管理」は各自の自主性に任せるということになるのでしょうか？

名称を「保健センター」に変更した施設の所長にこの質問をおつけてみました。答えは、「保健管理センターの時と同じです」。予想された通りでした。何故、これだけ言葉に敏感にならなければならないのでしょうか？「管理」は決して、個人を管理することではなく、個人の健康を維持するための情報や対策を管理することであると思うのですが。その個人の健康は、個人が属する集団の健康が管理されて初めて維持できる場合も少なくありません。そういう意味では、「保健管理センター」は決して間違った名称ではないと思うのですが。

とは言うものの、集団の健康を維持するためには個人の健康管理も必要になる場合も多いです。例えば、喫煙の問題。喫煙による伏流煙で身内が肺癌になった方もいます。お父さんの喫煙がお子さんの気管支喘息を引き起こすことも良く知られています。喫煙者のお母さんが妊娠し、生まれて来る赤ちゃんが低体重児になることも証明されています。これらの事実は、家庭という集団の健康を守るために、喫煙者個人の健康「管理」を行うに足るエビデンスとは思いますが。しかし、実際は実現の厳しい話題となります。強制すると悪い意味の「管理」になります。必要なのは、個人の自分に対する健康意識、自分の周りの健康に対する責任感でしょう。そうになると、やはり「管理」は不要で、「保健センター」が正解でしょうか。

成る程、「管理」が消えた意味がよく分かってきた様な気がします。「保健センター」

E-mail : iekom@hoku-iryu-u.ac.jp

には、重要な要素として、属する個々人の自分および周りの健康に対する意識（責任）というものが必要になるということです。

「失って初めて分かる親と健康のありがたさ」という川柳がありました（?）。



保健管理センター業務案内

◇当別キャンパス薬学部棟 2 階

【開室時間】

月曜日～金曜日 10:00～17:00

【保健管理業務】

1. 保健管理に関する実施計画の企画・立案
2. 定期及び臨時の健康診断並びにその事後措置
3. 学内の環境衛生及び感染症の予防についての指導
4. 保健管理に関する調査研究
5. 応急措置
6. その他保健管理に関する必要な専門的業務

【健康相談業務】

1. 健康に関する相談
2. 精神衛生に関する相談

◇学生相談室

*当別キャンパス <薬学部棟 2 階（保健管理センター内）>

【開室時間】

水曜日・木曜日 9:30 ～ 16:30

*札幌あいの里キャンパス <心理科学部 4 階>

【開室時間】

月曜日・水曜日 9:30 ～ 16:30

【利用方法】

1. 学生支援課（札幌あいの里キャンパスは心理科学課）のカウンターで予約
2. 電子メールで予約 e-mail: shien@hoku-iryo-u.ac.jp
3. WEBで予約（学内専用）
4. 学生相談室に直接行く（相談予約者が優先）



北海道医療大学保健管理センター年報
第4号(2011年)

発行 北海道医療大学保健管理センター
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
電話 (0133) 23-1211
FAX (0133) 23-1341
URL <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~hoken/index.html>
E-mail shien@hoku-iryo-u.ac.jp
発行責任者/編集人 家子正裕
発行日 2012年3月1日



北海道医療大学
Health Sciences University of Hokkaido